

農業委員会における女性登用推進の取組事例 (西郷村農業委員会)

〈西郷村農業委員会の体制〉

※ 分子が女性委員数、() 内が女性委員の割合。

	改選前	改選後 (令和5年7月～)
農業委員	1 / 12名 (8.3%)	3 / 12名 (25.0%)
農地利用最適化 推進委員	4 / 14名 (28.6%)	3 / 16名 (18.8%)

農業委員…農地の売買・貸借の許可等に係る農業委員会としての意思決定を担当するほか、最適化活動等の現場活動も担当。
農地利用最適化推進委員 (以下「推進委員」という。) …最適化活動等の現場活動を担当。

1. 女性登用における課題

- ・兼業農家が多く、女性農業者数も多くない状況。

2. 西郷村農業委員会における女性登用の取組

- ・農業委員会事務局がアンテナを高く張り、候補者に対して直接要請し、農業委員への登用を実現した。
具体的には、活発に活動し、生産の様子などをSNS (Facebook、Instagram) で発信している女性農業者の存在を把握し、声を掛けた。
- ・また、女性の推進委員に対して農業委員会事務局が働き掛け、農業委員への登用を実現した。
- ・女性推進委員が、近隣の女性農業者へ声を掛け、推進委員への登用を実現した。

3. 取組の成果

- ・令和5年7月の改選では、新たに女性農業委員2名 (うち1名は推進委員から登用) 及び女性推進委員1名を登用することができた。
- ・女性農業委員・推進委員が増加したことにより、総会等において女性委員が積極的に発言するようになり、委員会の活動の活性化につながっている。
- ・相談者が農業委員会に対して相談しやすい雰囲気作りができています。

4. 女性農業委員の声

- ・農業委員になる前は不安があったが、女性の推進委員が既にいたので、打ち解けやすかった。ざっくばらんに意見交換できるようになった。
- ・農業委員会の活動の中では、性別や年齢に関係なく、多方面から考えを出すことが重要ではないか。
- ・女性は、女性の委員のほうが相談しやすい場合もある。女性委員の存在は重要。
- ・農業上の相談がSNSのメッセージアプリで届くこともある。相談対応でも、また、委員候補者探索でも、SNSを効果的に活用している。
- ・女性登用推進については、農業委員会事務局の意識が大きいのではないか。
- ・農業委員会に入ると、研修会、農業委員会大会など、学びの機会が多いのが良い。

5. 農業委員会事務局の声

- ・委員が自ら後任を探す方式では、男性委員の後任は男性になりやすい。**事務局が関係者のところへ足繁く通うことが重要。**
- ・認定農業者の一覧から候補者を検討する、女性委員に候補者検討・掘り起こしについて協力してもらうといった手法もある。

6. 女性割合を維持・向上させるための取組

(既に実施している取組)

- ・新人委員もいるので、女性委員全員参加の定期ミーティングを行い、何でも言い合える場や情報共有できる場を設けている。
- ・**農業委員の地域訪問活動等**における女性農業者との交流や、情報提供・相談活動を通じて、**農業委員の活動内容等を理解してもらい、女性委員候補の掘り起こしにつながるよう取り組んでいる。**
- ・結果的に女性農業委員の裾野の拡大にもつながる活動として、児童・生徒への農業教育を実施し、農業の魅力を知ってもらい、**農業という職業に興味を持ってもらえるよう取り組んでいる。**

(今後の予定)

- ・女性委員のスキルアップに努めるとともに、他自治体の女性委員との交流を深め、女性委員特有の課題の解決について話し合うなどにより、女性委員の定着につなげていく。
- ・女性委員が中心となって、女性の新規就農者を増やすため、農業は魅力ある職業だということを広く情報発信し、女性農業委員の裾野の拡大にもつなげる。
- ・次回改選時には女性農業委員の割合を40%以上に向上させることが目標。

7. 今後の取組の方向性

- ・ベテラン委員だけでなく、新人委員も気兼ねなく発言したり、アイデアを出し合ったりできる環境を作っていく。
- ・性別に関係なく、委員が協力し合いながら、より良い委員会活動ができるようにしていく。

女性委員のミーティングの様子



地元中学生との交流の様子

